

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4270104013		
法人名	株式会社ハッピーパーク		
事業所名	グループホームハッピーパーク夢が丘		
所在地	長崎市小江原5丁目25-10		
自己評価作成日	平成24年9月4日	評価結果市町村受理日	平成25年1月7日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・昨年の暮、当事業所の家族会(オレンジリングの会)が発足され、家族会を中心に積極的に運営され、家族とスタッフが共に、入居者の生活向上を目指そうとホーム内外の行事等を中心に、活動が行われています。現在では、家族会会長の働き掛けで定期的な会議も開催され、家族会の和が広がっています。これから、家族会を中心に幅広い活動が広がって行く事を期待しています。
 ・当事業所は、認知症の症状を抑える薬の削減に取り組んでいます。現在では、主治医から病状的に必要であると認められる方(1名)のみ服薬していますが、その他の方は、認知症の薬は服薬していません。その結果、皆さん生き生きとした表情で過ごすことができています。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構		
所在地	長崎県長崎市宝町5番5号HACビル7階		
訪問調査日	平成24年10月18日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「自分らしい生活を笑顔で送る」という理念の基、毎日の介護が行われている。介護に当たったの目標の設定、見直しという一連の過程が確実に実行され、その作業の中に職員全員が積極的に関わっている。散歩や体操・マッサージといった活動を「ホーム内活動」として位置づけ、個別に統計を取り、達成度を数値化して、日々のケアに反映させている。また、薬の削減に取り組んでおり、利用者の気持ちに寄り添う事で、症状が改善され服薬の必要がなくなった事例がある。この事は、「自分らしく生きる」という理念に沿った介護が丁寧に行われている証しである。家族会が発足し、様々な行事を通じて支援を受けており、利用者・家族・職員が強い信頼関係で結ばれているホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	入居者の笑顔を沢山見せて頂きたいとの願いどおり、スタッフも日々努力し、入居者の方と笑い合える事が出来るよう取組んでいる	ホームの理念は入社の際に代表より説明がある。「自分らしく」「笑顔に彩られた生活」という理念は職員へ浸透しており、毎月、理念に沿った目標を立て、リビングに掲示している。次月の会議の際に目標が達成できたかどうかを全員で検証している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議を通して地域とのつながりが出来上がり、畑を通し子供達との交流の機会も多くなっている	自治会に加入しており、回覧版で運営推進会議の結果を知らせている。地域の方にタオルを提供して頂き、小・中学校や公民館に配布する取組みを行っている。ホームの畑でできた野菜を玄関先で販売したり、保育園の園児が芋掘りに訪れる等の交流がある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	自治会やご家族へ広報紙を配布したり、ホームの内容を毎月伝えています。現在雑巾の材料となる古タオルの寄付をお願いしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2カ月に一回は必ず実施し、推進会員や自治会等へ報告書を配布している。会議での評価は活かされている。	会議は2ヶ月に1度開催されている。規定のメンバーに地域ボランティアの参加がある。運営推進会議で要望があがり、1月に家族会が発足している。研修報告、行事の報告の他、服薬についての質問があり、ホームが服薬を減らしている取組みを説明し、認知症に対する理解を高めている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括支援センターとの交流を積極的に行っている。	長崎市の担当者とは、日頃から相談や報告等で連絡を取り合っている。地域包括支援センターの区域が7月から変更となり、新しい関係づくりを積極的に行っている。また、年に1回の介護相談員の受入れも行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全スタッフが認識し実践できている。	玄関は施錠しておらず、チャイムもない。身体拘束についての研修とテストを全職員へ実施しており、職員も正しく理解している。身体だけではなく、言葉による拘束についても禁止しており、現場ではその都度指導が行われている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年に一回は、スタッフ全員自主勉強会を行い、虐待防止についての取組みは浸透している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	全スタッフを対象とした施設内研修を一年を通し実践しています。その中に権利擁護に関する研修も含まれており学びの機会は持っています。現在、該当する方はおりませんが、状況に応じた支援に取り組む準備は出ている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結には、充分説明し納得のもと同意して頂いている。介護保険改定時にも必ず同意を頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会(オレンジリングの会)ご家族に率先して結成運営して頂いている。現在も、家族会は活動中であり、今一番力を入れている点である。	家族会が年4回開催されており、敬老会、ソーメン流等の行事は、家族会の主導で企画、運営が行われている。利用者からの外出や食事についての希望は、できるだけ受け入れている。地域祭りの出店販売の内容など、利用者の意見を取り入れて決定している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者が参加しないという形での自主的な会議を開催し、毎日の目標を掲げ、目標達成出来るよう取組んでいる。	職員から管理者へは要望が述べやすい環境にある。介護プランの他に職員が守るべき毎月の行動目標を職員が自発的に意見を述べあい、決定している。夜勤の2名体制については、緊急時の職員の負担を軽減するために、職員からの要望で導入し反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格取得に応じ、手当を付けている。他には、夜勤業務に対し手厚い手当が受けられている為、やりがいがある環境の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	中堅スタッフが、新人スタッフを指導する事で、自らも業務について知識を付けて行こうと努力する事で、お互いが向上出来るような仕組みとなっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	GH連絡協議会や母体施設での研修の場には、全スタッフが参加できるよう取組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	信頼関係づくりは、特に注意を払っている。入居者全員が自分らしく生活を送って行けるようスタッフ全員が気を使い関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族とは、入居前や面談時にご本人の事について話を良く聴くようにしています。その際には、ご家族と共にご本人を支えて行きましようと考えています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	今までこのような内容での支援は行った事が無いのではと思います。もし、子の様な支援が必要であるとしたら実施出来るよう努力したい。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	当ホームでは入居者の皆様は、私達スタッフにとって目上の人であり人生の先輩でもあるとの認識もと介護させて頂いております。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	当ホームでは、楽器のトライアングルとして、底辺を入居者・両サイドをご家族とスタッフとし、底辺である入居者を支えて行きましよう、家族会結成時に伝え、このトライアングルの関係を築いていきましよう、取り組んでいます。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者のご家族知人など気軽に訪問して頂けるよう、働き掛けは常に行っています。連絡が途切れないように定期的に連絡を取るようになっています。	家族に利用者へ宛てた手紙を書くように依頼し、利用者も家族へ手紙を出すなど家族同士の絆を大切に支援に努めている。正月や盆は家庭で過ごす利用者が多い。美容師や稽古事のお弟子さん、教会の神父の訪問もある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日中は、全員リビングで過ごして頂いていますので、気の合う者同志やスタッフとのコミュニケーションは普段から多く取れており、関係の支援は良くできているとお思います。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の施設や入院の為退所された方には、その後の様子など、時々愛に行くなど、又、ご家族への連絡や相談などあれば、受付が可能になるように努めています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者それぞれに、スタッフが担当として関わりを持つようにしています。その中で、毎日の生活を通じ、その時々のお話の中から自然な形で思いや要望等を把握しています。	外出や洋服、食べ物に関しては利用者にその都度「決めてもらう」事を大切にしている。夜勤時は廊下に設置した椅子で利用者との会話を大切にしている。発語が困難な利用者については、仕草から推察したり、生活歴を記載したアセスメント表を共有し、思いを把握する手がかりにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの暮らしの中から、それぞれに合った事や活動などを把握し、その内容に沿ったケアプランの作成に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者それぞれに、スタッフが担当として関わりを持つようにしています。その中で、毎日の生活を通じ、その時々のお話の中から自然な形で思いや要望等を把握しています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	スタッフ全員が、それぞれの担当者となっており、日々の変化や状況を把握しモニタリングに反映しています。	家族と本人の要望を基に作成した介護計画の短期目標については、個人別の「サービス結果表」に毎日記録するしくみが出来ている。月1回の会議の際に、全員で利用者の状態を発表し合い、3ヶ月毎に実施するモニタリングの検討会議に繋げている。モニタリングは担当者が作成した案を基に全員で話し合い、決定している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランの項目は毎日実践されているかチェックしています。その中で、変化が見られた場合は、記録を取り見直しの際に活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者の方にとって、現状では対応できない場面やニーズが発生する事があります。その際は、その現状に合わせる対応への柔軟な支援は常に考えて行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ホームの農園を利用し、地域の方々と共同作業(芋掘り等)やイベントの積極的参加(夏祭りなど)学校に寄付しようと雑巾縫いを進めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	医療機関とは良好な関係で適切な医療を受けている。	内科は2週間に一度往診が実施されている他、歯科、眼科、皮膚科も往診がある。結果は電話や面会時に家族へ伝えている。この他家族が受診に付き添った場合は、結果を聞き取っている。緊急時も24時間対応できる医療機関との関係が築かれている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	適切に連携が取れている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は、定期的に連絡を取り合いながら早期退院に向けた情報交換や関係づくりは出来ている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族や医療機関との連携が取れる事を条件に支援する為の取組みを行う準備はある。	看取りに関しては職員全員で話し合いがもたれており、利用者や家族が望む場合は出来る限り看取りを行いたい意向である。ただし、現在は看取りに関する指針は契約書に記載されているのみで、具体的な手順の確認までには至っていない。	看取りを行うに当たって、より具体的な手順や注意点を示した方針を明文化し、職員と家族への周知が行われる事が期待される。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	一部のスタッフは訓練を受けていますが、その時々の入居者の状況を踏まえ管理者が応急手当や対応の方法を等の指導を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	夜間帯での避難訓練は定期的に行っています。地域と協力体制とし特別に築いていないが、地域の消防団が近くにあり数分で駆けつけてくれる。	直近では2月と7月に避難、消火、通報訓練が夜間想定で実施されているが、消防署の立会いはない。夜勤者2名は役割分担が明確に決められ勤務前にお互いに確認し合っている。訓練については町内へ回覧版で知らせているが、実際の参加は今のところない。	ホームは住宅地の中に位置しており、火災の際には近隣の住民の協力の下、利用者を安全に避難させる事が求められるため今後も協力体制の構築に期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	当事業所のサービスの基本姿勢を掲げオリエンテーション時に必ず守ってもらう事項として、スタッフ全員に周知しています。	個人情報については、入社時に社員からは誓約書を家族からも同意書を取り交わしている。「介護サービス基本姿勢」の中で、個人情報保護について明示している。言葉使いについても、「して下さい」ではなく、「していただけますか」とするよう指導が行われている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	常時、この事に対しては、耳を傾けています。希望、要望が自然と出てくるような働きかけは実践出来ています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	上記と同じで、希望・要望は常に見つける努力を行っています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	今日着る服など、出来る限り自分で選べるよう支援しています。好きな事を行える事については積極的に応援しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	メニュー等は、入居者の皆様と話し合いながら決めていきます。また、下ごしらえ等出来る方には、率先して手伝って頂いています。	メニューは2、3週間毎に利用者の食べたいもの、職員の得意料理等を聞き取りながら決定している。下ごしらえを手伝ってもらう事もある。畑でパーベキューをしたり、運動公園や農園で昼ご飯を食べることもある。誕生日は好きな物を聞き取って作っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分量については、特に注意しています。1日最低1,500CCは水分摂取出来ているか毎日チェックしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアについては、ケアプランの日課表にも実施計画を立てています。個々の口腔内の状態に合わせた口腔ケアは、毎食事後実施しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	昼間はリビングで過ごして頂いております。トイレの時間を決めて、トイレへの誘導を行っています。オムツ使用者もトイレへの誘導は必ず行っています。	排泄チェック表をつけて、各自のパターンを把握し誘導をこまめに行っている。おむつ使用者であってもできるだけトイレへ誘導するという方針で、ポータブルは使用していない。この2年間でおむつからパッドへ改善された事例がある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日、朝・昼の遊びリテーションを通して運動量を増やす事や、1日1500CCを目標とした水分補給に努め、記録としてトータルを取っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	現在週3回をベースに曜日を決めていますが、その日の状態や状況によって臨機応変に入浴の時間や曜日を変えたりしています。	風呂は毎日沸かしており、最低週3回の入浴が実施されている。同性介助が基本である。脱衣所と浴室にエアコンが設置され、温度差をなくしている。入浴剤や菖蒲湯で季節感を出す他、一人ずつの職員手作りのお風呂用バスケットが作られ、入浴を楽しむ工夫を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	人間本来昼間は覚醒し夜は睡眠をとる事が自然であり、極力昼間の時間帯はリビングで退屈しない様工夫しながら過ごして頂くことで、昼夜のバランスがとても良い状態が継続出来ています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬は特に注意し、服薬間違いのないようダブルチェック対応を行っています。特に認知症の薬・睡眠薬等身体機能に著しく支障をきたす薬に対しては主治医と相談しながら徐々に減らすなど対策を講じております。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者それぞれの趣味や嗜好に合わせた個別な対応をさせて頂いております。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出に対しては積極的に対応させて頂いております。スタッフの人員配置も基準より多く配置しており、その日の外出希望にも即応できる体制ができています。	人員配置が基準より多く配置されている為、個々の要望にすぐ対応できる体制が取られている。近所の畑の作業に同行したり、車椅子の利用者と一緒コンビニへ出かける事もある。また、車椅子対応の車両で、菖蒲見物やおくんちにも出かけている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分で管理可能な方には、お金所持の制限はしていません。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人や家族の希望があれば、電話や手紙のやり取りは大いに歓迎しています。手紙のやり取りに関してはスタッフの支援を受けながら実際に行った事もあります。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	普通の一般的な建物なので、お年寄りにとっては不十分な空間ではないと思います。	ホーム内は、全体的に木のぬくもりが感じられる内装となっている。掃除が行き届いており清潔感がある。トイレは車椅子でも十分な広さがあり、気になる臭気もなかった。掃除は早出のスタッフが行い、天気の良い日は窓を開けて換気を行っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事をするテーブルとくつろげる空間ソファは別々の場所としていますので、自分の気に行った場所で思い思いくつろいでいます。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具の大きなものを除けば、持ち込みは基本的に自由です。使い慣れた持ち込まれている入居者の方多数いらっしゃいます。	日当たりのよい居室には全室空気清浄機が設置されている。居室の入口には職員手作りの名札とポストがあり、温かみを感じられる。祭壇や姿見、ミシン、花器が置かれている部屋もある。畳とフローリングの部屋があり、ベッドか布団にするかは自由である。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	リビングに、入居者全員氏名、生年月日をポスターとして貼り、自分の存在がいつでもわかるよう工夫している。又、季節毎の歌の歌詞を貼り、それを見ながら口ずさんだりしています。		